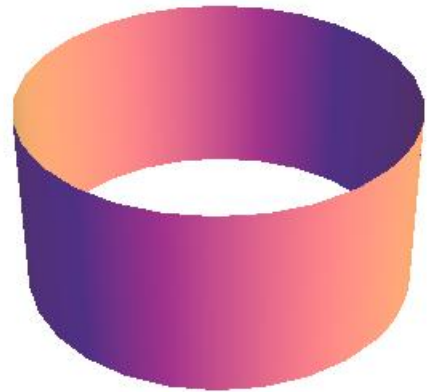


[解答例]

- (1) 半径 1, 高さ 1 の円柱の側面の展開図は,
縦 1, 横 2π の長方形となるので,
円柱の側面積 $= 1 \times 2\pi = 2\pi \dots$ (答)



[展開図]

- (2) 上面の半径 1 の円に内接する正三角形 ABC の
1 辺の長さを求める。1 辺の長さ $= AB = BC = CA = a$
とおく。

正弦定理より, $\frac{a}{\sin 60^\circ} = 2$ より, $a = 2 \sin 60^\circ = \sqrt{3}$

上面は, 1 辺の長さが $\sqrt{3}$ の正三角形となる。

三角形 ABC と円の中心 O とするとき,

中心角 $= \frac{360^\circ}{3} = 120^\circ$

OP = 1 (半径)

OH = $\cos 60^\circ = \frac{1}{2}$

PH = $\frac{1}{2}$

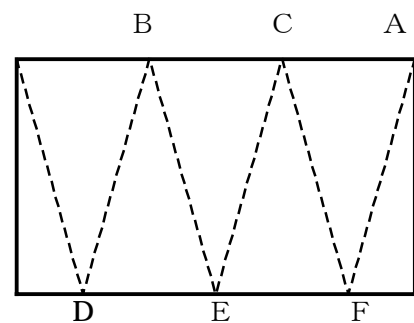
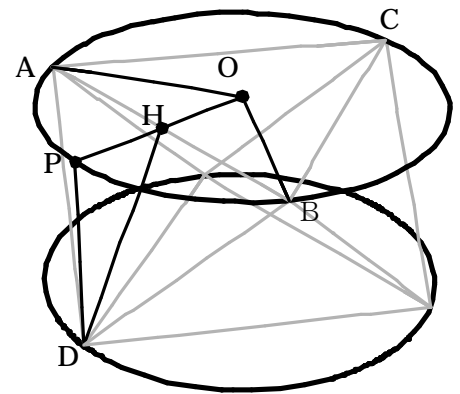
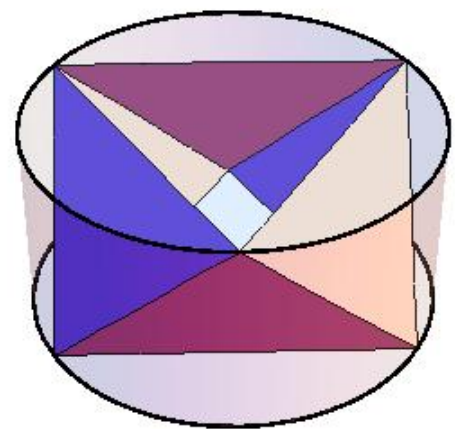
PD = 1 より

三平方の定理 $HD^2 = PD^2 + HP^2$

HD = $\frac{\sqrt{5}}{2}$

展開図は, 縦 $\frac{\sqrt{5}}{2}$, 横 $3\sqrt{3}$ の長方形となり

側面積 $= 3\sqrt{3} \times \frac{\sqrt{5}}{2} = \frac{3\sqrt{15}}{2} \dots$ (答)



[展開図]

(3) 上面の半径 1 の円に内接する正 n 角形の 1 辺の長さを求める。

$$\text{正 } n \text{ 角形の中心角} = \frac{360^\circ}{n}$$

$$\text{OH} = \cos \frac{180^\circ}{n}$$

$$\text{AH} = \sin \frac{180^\circ}{n}$$

$$\text{AB} = 2 \sin \frac{180^\circ}{n} \quad (\text{1 辺の長さ}) \quad \text{HP} = 1 - \cos \frac{180^\circ}{n}$$

三平方の定理 $\text{HQ}^2 = \text{PQ}^2 + \text{HP}^2$

$$\text{HQ} = \sqrt{2 - 2 \cos \frac{180^\circ}{n} + \cos^2 \frac{180^\circ}{n}} \quad (\text{高さ})$$

展開図は縦 $\sqrt{2 - 2 \cos \frac{180^\circ}{n} + \cos^2 \frac{180^\circ}{n}}$, 横 $2n \sin \frac{180^\circ}{n}$ の長方形となる。

$$\text{側面積} = 2n \sin \frac{180^\circ}{n} \times \sqrt{2 - 2 \cos \frac{180^\circ}{n} + \cos^2 \frac{180^\circ}{n}} \dots (\text{答})$$

(3) は $n = 6$ のときは, 横 6, 縦 $\sqrt{\frac{11 - 4\sqrt{3}}{4}}$ の長方形なので

$n = 6$ を代入すると,

$$\text{側面積} = 2 \times 6 \times \sin \frac{180^\circ}{6} \sqrt{2 - 2 \cos \frac{180^\circ}{6} + \cos^2 \frac{180^\circ}{6}}$$

$$= 2 \times 6 \times \frac{1}{2} \times \sqrt{2 - 2 \times \frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{3}{4}}$$

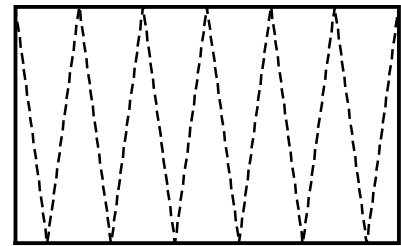
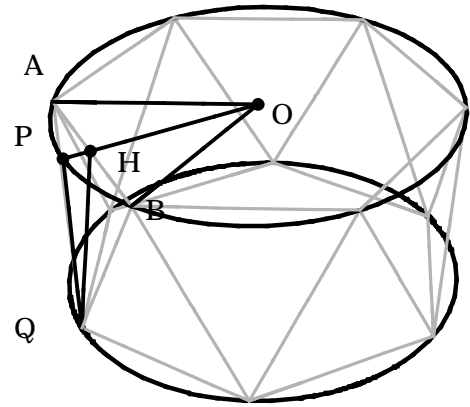
$$= 3\sqrt{11 - 4\sqrt{3}} \dots (\text{答})$$

(4) (3) の解答と同じ。

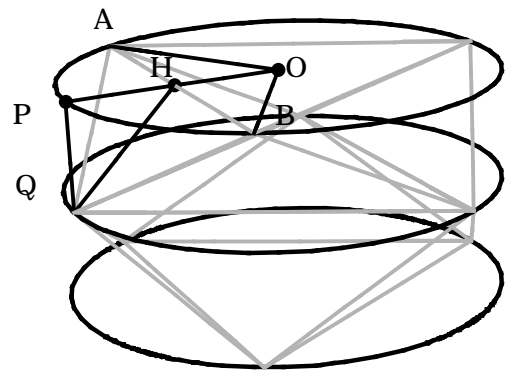
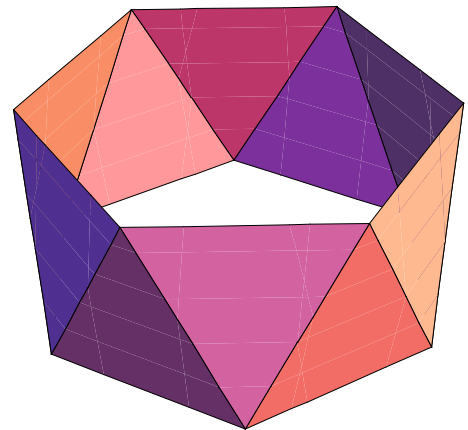
(5) 縦に m 等分すると,

$$\text{PQ} = \frac{1}{m}, \text{PH} = \frac{1}{2}, \text{HQ}^2 = \text{PH}^2 + \text{PQ}^2 \text{ より}$$

$$\text{HQ} = \frac{\sqrt{m^2 + 4}}{2m}$$



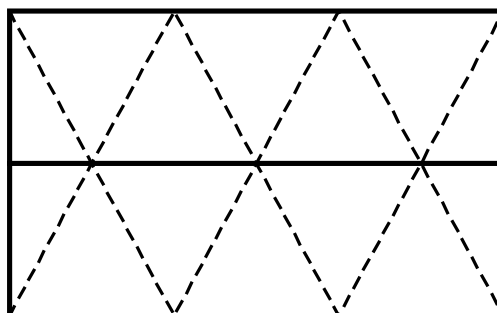
[展開図]



$$\begin{aligned} \text{側面積} &= 3\sqrt{3} \times \frac{\sqrt{m^2+4}}{2m} \times m \\ &= \frac{3\sqrt{3}\sqrt{m^2+4}}{2} \end{aligned}$$

$m=2$ を代入すると

$$\text{側面積} = 3\sqrt{6} \dots (\text{答})$$



(6) 同様にして、正 n 角形の m 等分のときを考える。

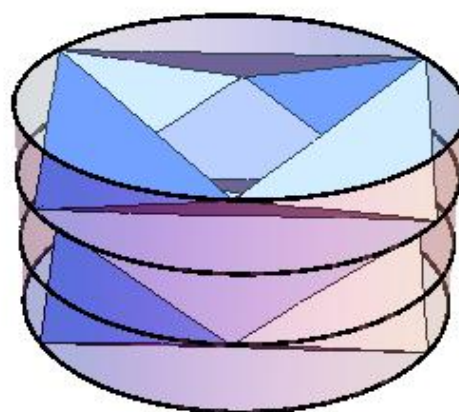
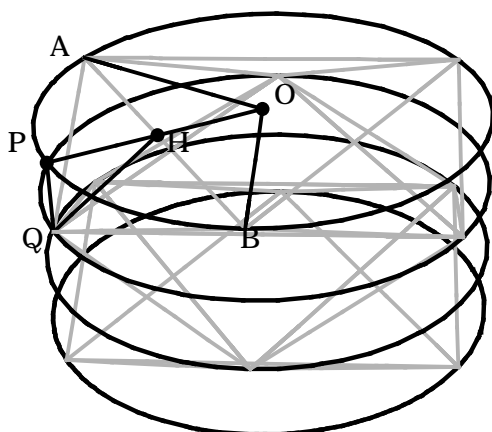
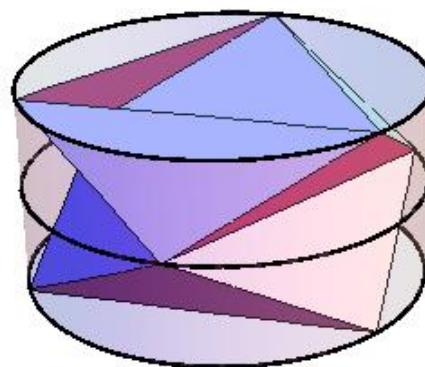
$$PQ = \frac{1}{m}, \quad HP = 1 - \cos \frac{180^\circ}{n}, \quad HQ^2 = PH^2 + PQ^2 \text{ より}$$

$$HQ^2 = \frac{1}{m^2} + 1 - 2 \cos \frac{180^\circ}{n} + \cos^2 \frac{180^\circ}{n}$$

$$AB = 2 \sin \frac{180^\circ}{n}$$

側面積

$$\begin{aligned} &= m \times 2n \sin \frac{180^\circ}{n} \sqrt{\frac{1}{m^2} + 1 - 2 \cos \frac{180^\circ}{n} + \cos^2 \frac{180^\circ}{n}} \\ &= 2n \sin \frac{180^\circ}{n} \sqrt{1 + m^2 - 2m^2 \cos \frac{180^\circ}{n} + m^2 \cos^2 \frac{180^\circ}{n}} \dots (\text{答}) \end{aligned}$$



【着眼点】高校の数学においては、1変数関数 $f: \mathfrak{R} \rightarrow \mathfrak{R}$ を主に扱うが、大学の数学においては、多変数関数 $g: \mathfrak{R} \times \mathfrak{R} \rightarrow \mathfrak{R}$ を扱う。その準備として、正 n 角形の m 等分の側面積を、「 $(n, m) \rightarrow \mathfrak{R}$ の関係から導きだせるか。」が論点である。日本の著名な「解析概論」(高木貞治著)「解析学序説」(一松信著)から引用した。